

最
前
線

研
究

ア
フ
リ
カ



アフリカの

食と農

photo by Juichi Itani

2011年5月14日(土) 京都大学アフリカ地域研究資料センター東京公開講座



The 25th Anniversary
AFRICA CENTER .2011

現代アフリカの入びとが生きてきた
 さまざまな環境とその発展について
 長年にわたって
 アフリカに通い続けてきた
 フィールドワーカーがお話します

伊谷 樹一

(京都大学アフリカ地域研究資料センター 准教授)

アフリカの農業と農村開発

東アフリカの半乾燥地に展開する多彩な在来農業を紹介しながら、アフリカ農業が直面するさまざまな問題点とその解決にむけた取り組みを解説します。

アフリカでは今も多く多くの農民が近代的な農業技術に頼らず、自然のサイクルに歩調を合わせながら人力や畜力によって生活の糧を得ています。多様な生態環境のなかで育まれた農業は、それぞれの社会・文化・宗教と密接に結びつきながら各地に個性的な農法を発達させてきました。ところが近年、急速なグローバル化や人口増加によって活発化する人間活動が生態環境への負荷を高め、それによる物質循環の乱れは生態環境に強く依存する在来農業に暗い影を落としはじめています。この公開講座では、主として東アフリカの半乾燥地域に展開する在来農業について、生態・社会・文化との関わりを具体的な事例とともに紹介します。そして、アフリカにとって急務の課題となっている環境に配慮した農村開発にとって、地域研究がどのように貢献できるかを考えてみたいと思います。

コンゴ民主共和国の熱帯林に住む焼畑農耕民ボンゴンドの様子と、得られた食物の写真を交えてお話しします。

木村 大治

(京都大学アフリカ地域研究資料センター 准教授)

アフリカ熱帯林における生業と食生活

私は最近、コンゴ盆地の熱帯雨林にあるフィールドの村に滞在しているとき、村の人々や自分の食べているものをまめに写真に撮るようにしています。食べ物の写真は、人に見せるとときいちはん興味を持ってもらえるもののひとつだし、現地では何を食べているかを見ることは、そこに住む人々の生活を知るための貴重な手がかりになるからです。この公開講座では、そのような食べ物や食事の写真を糸口として、コンゴ民主共和国の熱帯雨林に住む焼畑農耕民ボンゴンドの居住環境、焼畑農耕・狩猟・漁撈・採集活動、食事文化、社会経済的状况などについて解説していきます。



map



日時 2011年 5 / 14 (土) 11時～13時

会場 京都大学 東京オフィス 会議室 2・3

〒108-6027 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階 TEL:03-5479-2220

受講料 無料 定員 50名

受講を希望される方は、事前にお申し込みください。お名前、ご住所、お電話番号、E-Mailアドレスを記して下記のいずれかまでお送りください。

E-Mail) front-africa@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp FAX) 075-753-7831

郵便) 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学アフリカ地域研究資料センター 公開講座係

アクセス JR、京浜急行「品川駅」より徒歩 5分。

品川駅・東西自由通路(レンボロード)より品川インターシティA棟の2階に入館できます。

エスカレーターで3階までお上がりいただき、手前の高層階エレベーターで27階にお越しください。

なお、土・日・祝日はエレベーターは1階には止まりません。